

全国工業高等学校校長協会副理事長も務める日置賢司校長にデュアルシステム教育の意義や業界の魅力発信に向けた方策を聞いた。

学びの意欲向上へ小学生に発信

横須賀工業高校のデュアルシステム教育



全国工業高等学校校長協会副理事長
県立横須賀工業高校校長
日置 賢司氏

建設業界の担い手不足が深刻な課題となっていると同様、将来の業界の担い手を育成する神奈川県内の工業高校でも生徒数の確保に苦慮する状況が続いている。全国工業高等学校校長協会副理事長を務める県立横須賀工業高校の日置賢司校長は、県内の工業高校の多くが定数を満たさず競争率が1を切る状況が続くと明かす。一方で、工業高校の実態を知ってもらおうと多くの中学校を訪問してきた経験から、より若い小学生から業界の魅力を発信することで、高校での学びへの意欲につながるのではないかと提案する。建設業界と協力して独自のカリキュラムにより実践するデュアルシステム教育の意義も強調し、一層の業界との連携も見据える。

県内工業高校9校の21年度以降の生徒数をみると、競争率1を上回ったのは、21年度が神奈川県工業、川崎工業高校の2校、22年度は神奈川県工業、商工高校の2校、23年度は神奈川県工業のみ、24年度は神奈川県工業、商工高校の2校となっており、その他は1を割り込む状況が続く。この中で、横須賀工業高校は21年度0.88、22年度0.85、23年度0.78、24年度0.88、25年度0.74で推移している。

日置校長は23年に横須賀工業高校に赴任。何とか入校する生徒を増やそうと、横須賀、逗子、葉山、三浦の各地区の全31の中学校などを訪問し、先生や生徒などに工業高校の実態を紹介し

てきた。説明をする中で「多くの中学校の先生は、工業高校に行くことと工業が勉強をしないと知っている。工業高校の実態を知らない点に惜しい」と語る。実際の思いを感じたこととして、英語、体育、家庭科などの授業があることを紹介し、理解を促しているという。一方で、学校のホームページに授業や実習室、食堂、体育館などの3Dマップを掲載し、学校の雰囲気を知ってもらう工夫も凝らす。「学校を辞めてしまふ生徒の多くは、保護者や友人、先輩に言われて入校した場合が多い。自分で決めてほしい」との思いがある。

横須賀工業高校の特色の一つが企業が生徒に建設業の仕事を紹介する「デュアルシステム」だ。神奈川県建設業協会横須賀支部、横須賀建設業協会の協力を得て、年間20回、120時間を授業する。「毎週企業30社が来て、生徒に対して直接授業してもらっている。持ち込んだ重機で生徒が操縦をさせてもらったり、座学で製図をしたり、現場見学もたくさん実施している」。

授業は建設科2年生を対象とし、水曜日の6時間全てをデュアルシステムの内容で充てる。授業の内容は全て企業が企画し、評価もしてもらう。建設課の設立後、23年から開始し今年3年目を迎えた。生徒たちから

建設業の体験をより若い世代に

「3Kのイメージがだいぶ払拭された」「建設業の仕事に就きたいの思いになった」など、声が上がった。2年生で授業を受けた現在の3年生は、就職試験を受け全員が希望の会社に就職することができたという。

日置校長は「社会人の方とふれあうことができるのは大きい。普通は学べないレベルのことが体験できる」とその意義を強調する。協力企業には「デュアルシステムは成功例であり、負担のない限り継続してほしい」と求める。さらには、「ハラスメントなどを考慮して幾分気を付けている点もあるが、思えば、叱るときには叱って、遠慮しないで指導してほしい」と訴える。それが生徒たちの成長につながることを期待している。

他方、学校側が生徒たちに特に必要と考え、実践している教育は「コミュニケーション能力」と語る。コミュニケーション能力は、社会に出た際にも役立つ。「今の生徒たちは1対1の対話があまり得意ではない。そのため、模擬面接試験で練習をするなど、訓練もしている。あいさつも重要なのであいさつがしっかりできるように、育てていきたい」と見据える。

中学校の生徒たちに工業高校の実態を知ってもらおうと奮闘する中で感じるのは、「中学生に話しても難しい」ということだという。「小学校の目を向け、小学生にもものづくりの魅力を伝えたい。さらに中学校では違った形で興味をもってもらおう。その結果、高校では何が学べるか、学びたいかというストーリーが必要になる」と語る。実際、横須賀工業高校の近隣の公称小学校の文化祭で生徒たちが開くものづくり体験コーナーには毎年大きな反響があり、今年も準備したLEDの光るパズルづくりの材料全てを使い切るほどだったという。「今年11月に開

催したが、参加を希望する児童たちが行列になっていた。きっかけを与えれば、子どもたちは目を輝かせてくれる」と実感を込める。

小学生にもものづくりを教える上では、建設業界と工業高校との連携も可能ではないかと構想する。「ものづくりの体験では、社会人が直接小学生に指導するのは、企業が高校生に教えるよりも効果的になることにより親しみが持てるのではないかと述べ、業界との一層の連携による魅力発信にも意欲を見せる。

小学生に…

小学生にもものづくりの魅力を伝えた上で、さらに中学校では違った形で興味をもってもらおう。その結果、高校では何が学べるか、学びたいかというストーリーが必要になる。ものづくりの体験では、社会人が直接小学生に指導するのではなく、企業が高校生に教えよう高校生が先生役になることでより親しみが持てるのではないか。

企業が…

企業が生徒に建設業の仕事を教育する「デュアルシステム」だ。神奈川県建設業協会横須賀支部、横須賀建設業協会の協力を得て、年間20回、120時間を授業する。毎週企業30社が来て、生徒に対して直接授業してもらっている。持ち込んだ重機で生徒が操縦をさせてもらったり、座学で製図したり、現場見学もたくさん実施している。